

(北陸中日 2011年3月18日)

# 福祉施設 善意つなぐ

## 金沢を中継 仙台へ物資

### 東日本大震災

東日本大震災で被災した老人ホームに救援物資を届けるため、全



雪が降る中、施設職員らに見送られ出発する支援物資運搬隊。金沢市弥生で

国の高齢者福祉施設でつくる「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会」（京都市）が、大阪から加盟施設を經由して仙台へ物資を運ぶリレーを進めている。十七日朝には金沢市を出発、一刻も早い現地入りを目指して車を走らせている。

連絡会には仙台市の老人ホームも加盟し、事務局に食料や介護用品の不足を訴えているという。流通の混乱で被災地に物資を直接届ける方法がないため、加盟施設が多い関西から日本海側の各地を中継するリレー方式で届

けることにした。非常食や紙おむつなどを積んだ車二台が十六日に大阪市内を出発し、同日午後金沢市の特別養護老人ホーム「なんぶやすらぎホーム」に到着。同ホームが用意したワゴン車とトラックに積み替えて

金沢で募った物資を補充、運転手も交代して十七日朝、次の中継地の新潟市へ向かった。救援物資は新潟を経由して、十七日中に山形市の最終中継地まで到着する予定。なんぶやすらぎホーム施設長の坂口朋美さんは「仙台のホームは一般の人も避難してきており、特に食糧が足りていないらしい。少しでも早く

みんな  
がんばれ!

現地に届けたい」と話している。

関西から仙台へのリレーは十九、二十日にも出発する予定。事務局には福島県内の加盟施設からも支援要請が入り、物資を届ける方法を検討しているという。（佐藤航）

2回目の発表の記事  
(裏面もあり)



第2次隊の出発を見送るやすらぎ福祉会の職員と住民ら＝20日、金沢市

# 福祉施設へ物資リレー 東日本大震災

## 21老福連 中継の金沢では

東日本大震災で被災した高齢者福祉施設に救  
援物資を送ろうと、全国の高齢者福祉施設でつ  
くる「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連  
絡会」(21老福連)が大阪から加盟施設を中継  
して被災地へ物資を運ぶリレーを進めていま  
す。中継地の一つ、金沢市の「やすらぎ福祉  
会」の活動を紹介します。(石川県・中西優)

「気をつけてみなさん  
の思いを届けてくださ  
い」。20日午前7時、  
施設職員や地域住民に見  
送られ、水や食料、介護  
用品などを積んだ車2台  
がやすらぎホームを出発  
しました。新潟の中継地  
を経て最終中継地の山形  
まで1日で届けられる予  
定です。

「リレー便は今回で2回  
目。福島原発事故の影響  
で太平洋側ルートが通行  
困難なため、愛知県蒲郡  
市から送られた物資も急  
きょ運ぶことになりました  
た。」

出発式では、同福祉会  
に加盟する「なんぶやす  
らぎホーム」の坂口明美  
施設長が「できる限りの

## 家族・業者 広がる支援

(2011.3.22 赤旗)

物資を積み込んだので、  
重くて大変だと思いま  
すが、安全運転でみなさ  
んの思いを運んでくだ  
さい」と運転手を励  
励。職員、住民らが大き  
く手を振って見送りまし  
た。

受け入れ準備も  
同福祉会はリレー便の  
運行への協力と並行し  
て、救済募金や支援物資  
を集める活動や被災地か  
ら要介護者を受け入れる  
ための準備を進めていま  
す。

震災後の入居者懇談会  
では、「まるで戦災のよ  
うな状態だ」との声と  
もに、多くの募金が寄せ  
られました。職員・家族  
や業者からも多くの募金  
が寄せられています。施  
設と取引のある13の業者

や個人から「被災地に届  
けてぜひ役立ててほし  
い」と紙オムツやタオル、  
ゴム手袋などが数多  
く寄せられ、支援の輪が  
大きく広がっています。  
地震で避難生活が必要  
となった要介護者の受け  
入れについての県の調査  
に対し、同福祉会は、2  
人までの受け入れが可能  
と回答し、準備を進めて  
います。

やすらぎホームの主任  
相談員・山口修治さんは  
言います。「施設の関係  
者の中にも震災の被害を  
受けたり、知人が行方不  
明など、大変な状況の人  
がいます。実際に要介護  
者を受け入れた場合、定  
員数などの関係で現場の  
実態から言えば大変な現  
状ですが、頑張りたいと  
思います」